

大阪大学図書館報

Vol.31 No.2-3 December 1997 (平成9年) 通巻 127号

目 次

- 情報教育と図書館
- 求める文献を入手するまで
- アメリカ見聞記 大学、図書館&アムトラック編
- 第2回貴重書展示会ほか
- 教官著作寄贈図書
- お知らせ
 - ・懐徳堂資料の電子化
 - ・電子情報サービス検討委員会の設置
 - ・本館で学術雑誌総合目録等、
CD-ROMソフト追加
 - ・生命科学分館でCD-ROM
検索サービス時間帯を拡大
- 会議・日誌
 - ・生命科学分館でBAの検索サービス開始
 - ・生命科学分館が全館禁煙に
 - ・平成8年度大阪大学附属図書館年次報告
を刊行

情報教育と図書館

中西 通雄

1 はじめに

「先生、本があるのはわかったけれど、図書館のどこにあるんですか？」これが、図書館のオンライン目録OPACの利用方法を教えたときの、ある1年生の反応であった。6月のはじめだったから新入生なら不思議ではないかもしれない。

新入生はどの程度図書館を利用しているのだろうか。夏休み明けの9月1日に人間科学

部1年生に対してアンケート調査を実施してみたところ、120人の回答者のうち約5割の学生が阪大附属図書館から1冊以上本を借りたことがあると答えている。逆に言えば、約5割の学生は図書館で本を借りたことがないわけであるから、この数字は図書館の方々を失望させるものかもしれない。それはさておき、まず情報処理教育のことから始めよう。

2 情報処理教育における情報検索

2.1 情報活用基礎

本学では、1994年から1年生に対する一般情報処理教育を必修化している。「情報活用基礎」という科目名で、半期1コマの授業である。正確に言えば、法学部・工学部・基礎工学部の学生には、情報活用基礎ではなく、各学部独自の情報処理関連の専門科目が1年次または2年次で用意されている。

情報活用基礎ではコンピュータリテラシーを教育目標としている。原則的には各学部の教官がこの授業を担当するが、私は人間科学部の授業を3年間担当してきた。授業内容の詳細についてはここでは触れないが、人間科学部と文学部では、ほぼ毎回宿題を出し、夏休みには LATEX を用いた3ページ程度のレポートを書かせている。昨年末に共通教育機構で実施されたアンケート結果を見ると、学生は概ね情報活用基礎の授業に満足しているようである。

2.2 OPACによる情報検索

オンラインで検索できるデータベースは年々増加しており、これらを上手に検索すれば研究・勉学の効率をあげられるので、情報検索はコンピュータリテラシー教育の一つの重要な柱である。私は、かねてより「情報活用基礎」で情報検索をとりあげたいと思ってきたが、これまで適切なデータベースがなかった。

例えば、阪大でサイトライセンスを取得しているMedlineは、医学・生物学・心理学などの膨大な情報を提供しており、Webでも利用できるようになった。しかし、同時利用者数の制限から授業で学生に使わせることはできないし、1年生にとって少し難しすぎる。これに対して、阪大図書館のオンライン目録(OPAC)ならば、学生にとって検索する興味も湧くだろうし、すぐに役に立つはずである。昨年まではOPACを利用するための適当な道具立てがなかったが、今年度になってWebによるサービスが開始されたので、情報検索の一例としてこれを授業でとりあげることにした。

3 OPACを利用して見て

3.1 OPACのわかりにくいところ

授業では、OPACについて30分ほどを使って説明した。冒頭の学生とのやりとりは、この授業のときのことである。授業の宿題としてOPACを使った感想を書いてもらったので、ここで紹介する。

3.1.1 著者名の検索

著者名での検索方法の説明が必要である。姓と名の間にスペースを1つだけ入れなければならないが、このことがHELP画面にも記載されていなかった(その後、依頼して改善していただいた)。しかも、「夏目 \square 漱石」のようにスペースを2つ以上入れてしまうと、ヒット件数は0となる。このような入力インターフェイスは、人に優しい設計とは言えないであろう。

アルファベットの場合だと、「Knuth」では29件ヒットしたが、「Donald E. Knuth」や「D. E. Knuth」では0件となってしまう。HELP画面で入力方法の説明を増やしてほしい。

3.1.2 本の所在場所

検索結果の表示内容の説明が欲しい。例えば、実際に「マディソン%」(%は前方一致検索の指定)で検索すると、「マディソン郡の橋」がヒットし、所在場所として「本館国交」が表示されるが、みなさんはこれがどこかご存じだろうか¹。また、検索結果に表示される数字は日本十進分類法(NDC)であり、それによって本が図書室の中で体系的に配置されている、という事すら知らない学生もいることがアンケートからわかり、少しショックであった。紙カードを検索したことのない学生も1/3いたので、図書館離れが生じているのかもしれない(もっとも紙カードは急速に消えていくだろうが)。所在場所の略語にとどまらず、NDCの説明もHELP画面に載せるか別ページに用意してHELPからリンクを付ける必要があるだろう。

¹本館国交とは、グラウンド横にある国際交流会館のことである。

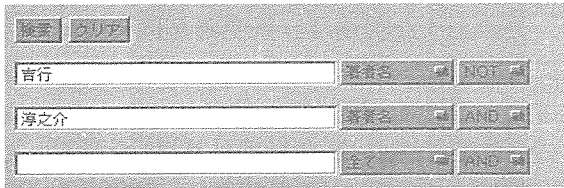


図 1: NOT 演算の使用例

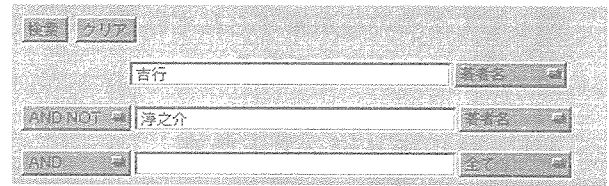


図 2: 画面を改良した例

3.1.3 条件式と NOT 演算

検索条件の論理演算子には、AND/OR/NOT が選択できる。しかし、図 1 のように論理演算子が右端に表示される画面設計はちょっと気になる。むしろ、図 2 のように、論理演算子を次の行の頭に表示したほうがわかりやすい。

また、NOT の意味がわかりにくい。例えば、「吉行という著者名で、かつ吉行淳之介以外の本」を捜したいものとする。素直に論理式にすると、「吉行 AND (NOT 淳之介)」になるが、OPAC では図 1 の「吉行 NOT 淳之介」と指定する。これは図 2 に示したように、NOT の代わりに AND NOT を表示すべきであろう。ちなみに、上記の検索では吉行和子、吉行理恵らの本がヒットする。

3.2 OPAC への期待

前述の 9 月のアンケートでは、「OPAC は便利か?」という質問に対して、図書館で本を借りたことのある人間科学部 1 年生は、67% が YES、26% が NO と答えている。「分類番号で場所がわかるので便利」という意見がある反面、「実際に書棚へ行くほうが知的好奇心が刺激される」、「直接手にとって本を見たい」などの感想もあった。この他に学生からは次のような意見があった。

- 主題別で検索したい
- 目次まで対象として検索したい
- 本の表紙や背表紙の写真を見たい

これらのサービスについては、インターネット上の仮想書店にはかなわない。すでに紀伊國屋書店や米国の Amazon.com を見ても、概要や表紙の写真など部分的に実現されている。

紀伊國屋書店では会員になると、一部の本については目次や概要も提供されるようである。

主題別の検索機能を提供するためにはデータ入力の問題があるが、実現したら今まで眠っていた蔵書が有効活用されたという事例も報告されている（岡部一明著「インターネット市民革命」お茶の水書房）。

Amazon.com では、Web で A という本を検索すると、「A を注文した人は、B や C という本も一緒に注文されますよ」などと売れ筋の本まで表示してくれるので、ついついそれも買いたくなる。OPAC でも貸し出しデータを基にして、類書の紹介をするとよいかもかもしれない。ただし、プライバシーを保護するための十分な配慮をしたシステム設計が必要である。

新着図書を OPAC で紹介すれば、図書館がもっと身近になるだろう。また、図書などの貸出し予約を Web で受け付けて、本が返却されて借り出せる状態になったときに予約者へ自動的にメールを発信するようなシステムにするのも容易であろう。購入希望図書の申し込みも、Web を利用できるはずだ。今後ますます OPAC の機能が充実されることを願っている。

4 図書館の情報化

話が OPAC に片寄ってしまった。図書館の情報化に話を移そう。図書館は「授業」という形式の教育こそ担当していないが、勉学に必要な図書をタイムリーに揃え、マルチメディア機器・教材を提供することによって、学生に対する教育を担っている。図書館で考えておられる「将来構想」(<http://www.library.osaka->

u.ac.jp/kanpo/yuasa.htm) では、図書館の機能として7つの柱が挙げられているので、この一部について考えてみる。

4.1 マルチメディアと教育

「将来構想」の1番目と3番目の柱として、「マルチメディア・ライブラリーの実現」「共通教育の支援」が挙げられている。マルチメディア化への要請は、筆者の職場である情報処理教育センターでも同じである。支援対象は共通教育だけに絞る必要はないであろう。

最近では、コンピュータは様々な科目の教育に利用されるようになりつつある。例えば、CD-ROMなどのマルチメディア語学教材を利用した英語教育などが一部で実施されはじめているし、分子生物学の授業では、複数の遺伝子を検索してきて比較して見せたり、タンパク質の分子構造を様々なモデルで表示するなど容易にできるようになった。センターでは、このような教育形態の変化に対応して、マルチメディア対応のコンピュータ環境を運用し、教育に必要なアプリケーションソフトウェアを提供していかなければならないと考えている。

一方、情報を正しく利用するための教育も必要である。情報活用基礎では、学生個人のホームページを作成させるにあたって、知的財産権やマナーに関する教育を取り入れている。マルチメディアの環境では容易にコピーができてしまうので、図書館でも著作権を学生にきちんと理解させるための教育が必要になる。知を持つ者にこそ倫理が必要である(加藤・松山編「現代世界と倫理」晃洋書房)。

4.2 仕事場の提供

2番目の柱としては、「研究者の仕事場の提供」が挙げられている。本格的な調査研究のためには、蔵書やレファレンス・サービス(参考業務)が重要であり、研究者のためのスペースも必要である。そこをリモートオフィスとして、設置されているパソコンから学内LAN経由で研究室のパソコンに接続すれば、図書館の蔵書で調べた結果をすぐに自分の論文の執筆作業に役立てるといったこと

も可能となる。

このような利便は、研究者だけでなく学生にも提供すべきであろう。この試みとして、図書館本館には、情報処理教育センターの10台の分散配置端末(利用者用計算機)を設置していただいている。この計算機は、月曜から土曜の開館時から閉館時までほぼフルに利用されており、今年度末には、本館にさらに10台、吹田分館と生命科学分館にそれぞれ5台ずつの設置を予定している。

4.3 データベースの提供

データベースは「将来構想」の中では小さな扱いになっているが、図書館では、前述のMedlineのほか、新聞や判例などのCD-ROMソフトを積極的に揃えている。データベースは、現在大型計算機センターでもサービスが行われており、利用者管理、データベースの管理、計算機の運営、予算措置などの業務が図書館とは別に必要となっている。ソフトウェアのサイトライセンスを取得して学内に配布するというサービスを、センターか図書館あたりで開始して欲しいとの要請も多い。これらの管理業務を統合して効率化を図り、利用者に対する「ソフト」の提供サービスを充実すべきであろう。

5 おわりに - 大学の情報基盤 -

今まで述べたように、図書館にはソフトを充実させることが重要であり、電子化図書館への期待もふくらむ。このためにも、大阪市立大学の学術情報総合センターのような最新鋭の設備を持った建物が早期に建設されることを期待したい。また、大型計算機センターや情報処理教育センターも図書館と機能的に深い関連を持つので、これら三つの組織が様々な面で協力していく必要がある。さらには、大阪大学の「情報基盤」を拡充するための方策を、学内の全員で検討すべき時に来ていると言えよう。

なかにしみちお
(情報処理教育センター助教授)

求める文献を入手するまで

情報サービス課参考調査掛

これから、皆さんが何か文献を入手しようとする際にとるべき手順についてご説明します。想定する読者は、文献の入手に不慣れな方です。文献としては図書や雑誌に収録された論文などを想定し、電子ジャーナルのように利用者が直接入手する形態は含みません。

大阪大学で何かの文献を入手しようとするための手順は、通常は大別して次の3つの段階になります。(図1参照)

- <1> 文献を収録している資料を明確にする
- <2> 資料の所在場所を探す
- <3> 資料の利用方法を決めて手続きする

<1> 文献を収録している資料を明確にする (図1のA)

文献を入手するには、その文献を収録している資料について、次の事項が明確である必要があります。一部は不明でも大丈夫な場合がありますが、情報が多いほど入手しやすくなります。

資料のタイトル／著者名／出版年／雑誌であれば巻号／掲載ページ／資料中の論文・記事であれば論文・記事のタイトルや著者名／その他資料を同定するのに必要な情報

- ▽ 収録している資料が明確でない場合 → 収録資料を調べます。(図1のA)
 - ・ 「〇〇に関する論文がほしい」のように、まだその文献の存在自体が不明な場合は、論文などの概要を集めたいいわゆる2次資料などを調べて、求める文献自体とその収録資料を明確にします。
 - ・ 「著者名はわかっているがタイトルが不明」のように、求める文献に関する情報不足を補う場合は、2次資料の外に各種目録が役立つことがあります。

<2> 資料の所在場所を探す (図1のB～D)

収録資料が明確になれば、その資料がどこに在るかを調べます。

- ▽ 資料が阪大内に在るか／在ればどこかを、OPACやカード目録などで調べます。(図1のB)
- ▽ 阪大内に無かった場合 → 阪大以外でその資料の所在場所を探します。(図1のC)

学術雑誌総合目録、Webcat、国立国会図書館の蔵書目録などのツールを使います。但し、利用できるツールは館室によって異なります。
- ▽ 阪大外にも見つからなかった場合 → 所蔵している可能性がある大学などに対しての所蔵調査を申し込みます。(図1のD)
- ▽ 館室によっては、阪大外の所在場所調査(図1のC、D)を省略して次の利用手続(図1のF、G)をすることができます。

<3> 資料の利用方法を決めて手続きする (図1のE～G)

資料の所在場所がわかれば、利用方法を決めて手続きします。

- ▽ 阪大内に在った場合 →
 - 自キャンパスに在る場合

利用者が直接所在場所へ行って利用します。(図1のE)
 - 他キャンパスに在る場合

直接行く(図1のE) / 現物を借受ける(図1のF) / 複写物を取寄せる(経費要)(図1のF)の中から選べます。

▽ 阪大外にのみ在る場合 →

現物を借受ける（経費要）（図1のF） / 複写物を取寄せる（経費要）（図1のF） / 所蔵先で閲覧する（図1のG）の中から選べます。

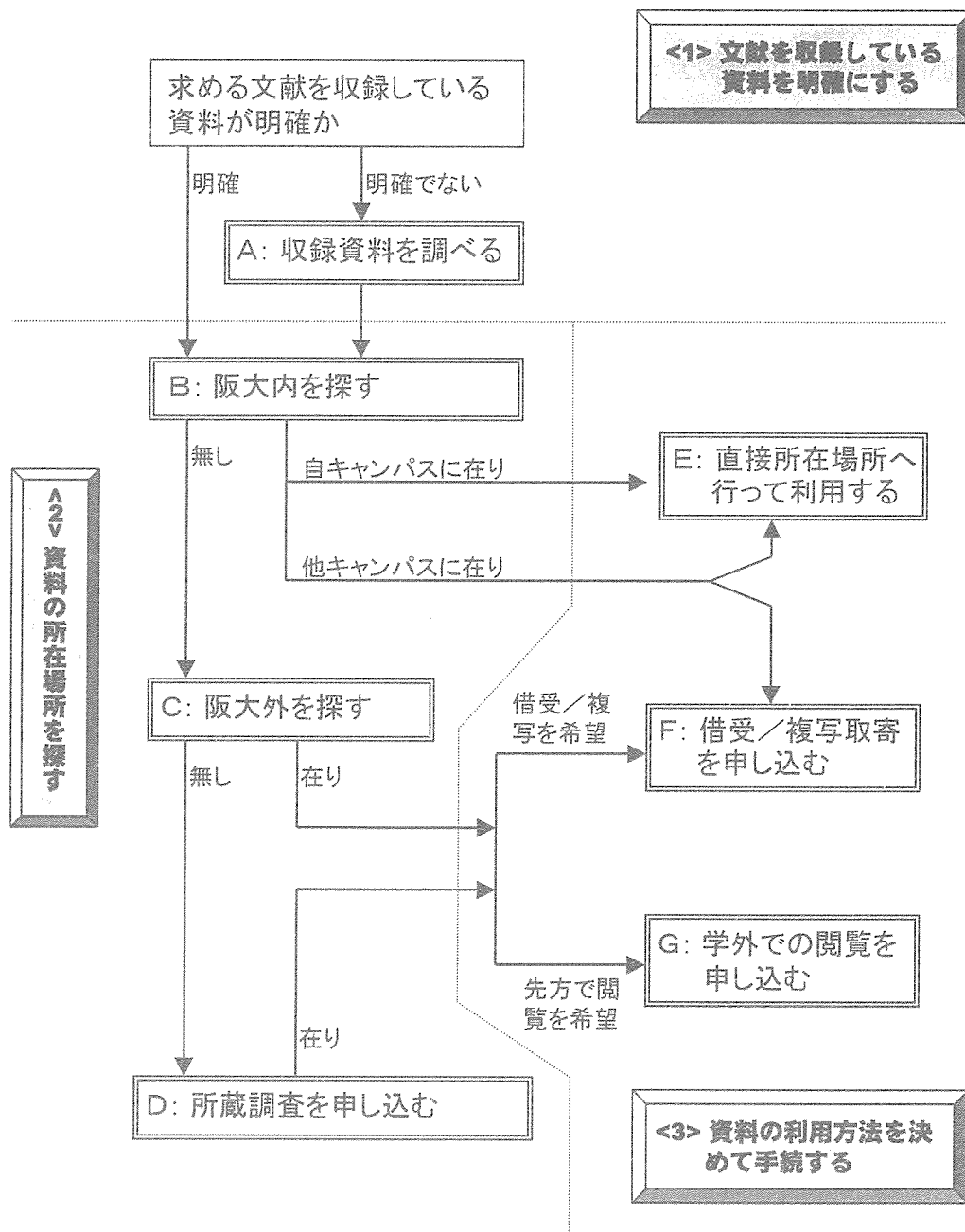
▽ 所在場所によっては、利用方法に制約がある場合があります。

図1のD、F及びGの申し込み窓口は、利用者の所属部局などにより異なります。別表1を参照して下さい。

※ 今回の記事では手順全体の流れを概説しました。手順それぞれの詳細については、今後、WWWの図書館ページ、図書館報、窓口配付資料などによって、順次ご説明していく予定です。

※ 分からないことがありましたら、各図書館室のカウンターでお尋ね下さい。

図1: 文献の入手まで



別表1： 利用者の所属部局別申込み窓口一覧

所 属 部 局	申し込む事柄										備 考	
	F：借受／複写取寄					D：所蔵調査						
	借受		複写取寄			共通閲覧証		G：学外閲覧				
	学内 ⁴⁾	学外	学内 ⁴⁾	学外	海外	学内	学外	海外	学内	学外		
文、法、経、言文、健体、国際公共、共通教育	本館	本館	本館	本館	本館	本館	本館	本館	本館	本館	本館	*閲覧カウンター
人間科学部	人	人	人	人	人 ¹⁾	人	人	人	人	人 ¹⁾	人	
理 ²⁾ 、工作セ、低温セ(豊中)、R Iセ(豊中)	理	本館	理	理	本館	理	理	本館	理	本館	本館	*閲覧カウンター
基礎工、情教セ、極限セ、有機光セ	基	本館	基	基	本館	基	基	本館	基	本館	本館	*閲覧カウンター
医、菌、細工セ	生命	生命	生命	生命	生命	生命	生命	生命	生命	生命	生命	
薬学部	薬	薬 ^{1,3)}	薬	薬 ³⁾	薬 ^{1,3)}	薬	薬 ³⁾	薬 ^{1,3)}	薬	薬 ³⁾	薬 ^{1,3)}	
微生物病研究所、遺伝	微	微 ^{1,3)}	微	微 ³⁾	微 ^{1,3)}	微	微 ³⁾	微 ^{1,3)}	微	微 ³⁾	微 ^{1,3)}	
蛋白質研究所	蛋	蛋 ^{1,3)}	蛋	蛋 ³⁾	蛋 ^{1,3)}	蛋	蛋 ³⁾	蛋 ^{1,3)}	蛋	蛋 ³⁾	蛋 ^{1,3)}	
産業科学研究所	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	
社会経済研究所	社	社 ¹⁾	社	社 ¹⁾	社	社	社 ¹⁾	社	社	社 ¹⁾	社 ¹⁾	
工学部及び上記以外の吹田地区部局	吹田	吹田	吹田	吹田	吹田	吹田	吹田	吹田	吹田	吹田	吹田	

・ 申込窓口の「本館」は本館・参考カウンター(*付を除く)、「生命」は生命科学分館・レファレンスカウンター、「吹田」は吹田分館、他は各部局の図書室です。

- 注 1) 受付後、他の館に転送して処理するため、多少時間がかかります。
 2) 理学部で北ブロックに所属される方は、共通閲覧証発行を除いて本館でも受け付けます。
 3) 生命科学分館でも受け付けます。
 4) ここでいう「学内」とは阪大内の他キャンパスからの取寄せのことです。館内資料の借受及び複写は、本館では閲覧カウンター、生命科学分館ではメイン・カウンターで申し込みます。

※ 吹田地区所在の部局に所属する利用者で特に希望する場合は、上記にかかわらず共通閲覧証発行を除いて本館でも申し込みを受け付けます。ただし、その場合の資料の受渡し等は本館で行います。

アメリカ見聞記

大学、図書館&アムトラック編

久保山 健

今年（1997年）9月にアメリカを旅行しました。その際に、いくつかの大学、図書館を見学しました。個人的な訪問でしたが、簡単にご紹介したいと思います。また、途中の移動にアムトラック（列車）を使いましたので、そのことにも少し触れたいと思います。

●University of California, Berkeley

この大学では、とても学生が多く、大変にぎやかという印象を受けました。一方で、日本との違いを意識させられることもありました。

学内を少し歩いてから、中央図書館とおぼしきところに入りました。ここには、入館ゲートのようなものはなく、私も自由に入ることができました。しかし、入り口の脇には、入館者の安全のためか、警備上の理由からか、学生のアルバイトのようにも見える若い職員がいました。これは、このあと訪問する図書館にも概ね共通するものでした。

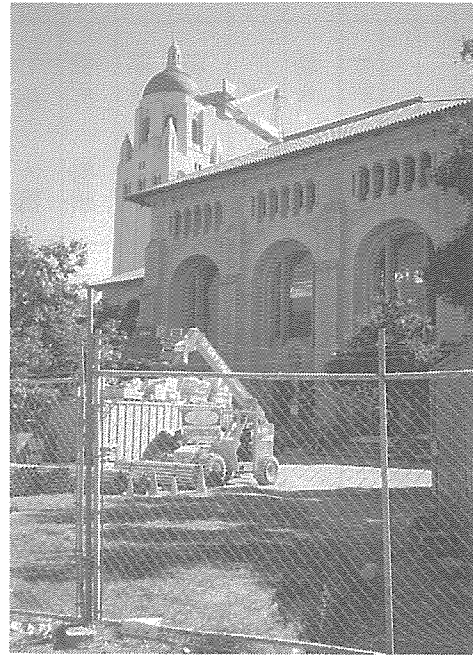
また、館内に置かれていたチラシは、図書館の中といえども必ずしも安全な場所ではないと教えてくれました。それはthe Campus Policeから利用者と職員向けに書かれた、おおよそA4の大きさの紙です。例えばトイレを使うときは、自分の周りとなかなか立ち去らない人に注意しなさい（Be aware of your surroundings or individuals lingering in or around restrooms.）と書いてありました。実際どの程度危険なのかは分かりませんが、少なくとも日本の図書館（あるいはいずれの公共施設でも）を利用するときに、こんなことまで考えませんよね？

●Stanford University

翌日、有名な私立大学であるスタンフォード

大学を訪れました。前の日と打って変わって、休業中なのか、あまり人の姿が見えません。とてもきれいで、静かな大学という印象を受けました。

まず、Visitor Information Centerに行っ、電子メールで確かめたキャンパスツアーの時間を再確認し、図書館の場所を教えてもらいました。ところが、図書館に行ってみると、工事中で閉館でした。残念。



工事中のGreen Library

それでも、キャンパスツアーの後も、学内をのんびり散歩していたりしました。あまりのんびりしすぎて、1時間に1本のバスに乗り遅れて、さらにのんびりできましたが、、、。

●Denverへ

スタンフォードを訪れた翌日、列車（Amtrak、アメリカのJRみたいなもの）で、アメリカ中部の町、デンバーに向かいました。

この列車は、サンフランシスコ近郊を午前11頃に出発し、デンバーには翌日の夜8時頃に着くという、長距離列車です(ちなみに、この列車はシカゴ行きで、シカゴには次の日の夕方に着きます)。景色はとて素晴らしいし、アメリカ内外からの旅行者といろいろ話げできましたので、たいへん楽しいものでした。



デンバーに向かう途中、車窓から

私はぜいたくをして、寝台車(sleeper)に乗りましたので、快適に過ごすことができました。けれども、座席車(coach)でもJRの特急普通車よりはかなり広かったようです。時間と体力があれば、USAレイルパスを使ってかなり安く旅行できるでしょう。

私の場合、チケットは、国際電話で予約をして、なぜか日本国内の代理店で発券してもらいました。最初はアメリカで発券してもらおうものだと思っていました。ところが、電話のオペレータは"Nippon Travel"とか"Kintetsu"など、聞いたことのある名前をあげて、そこへ連絡しなさいと言っていました。

大丈夫なのかなあ、と思いつつ、旅行社に電話すると、2、3回、違う番号にかけ直すように言われ、結局別の旅行社から電話がかかってきました。日本国内で発券することはあまりないらしく、旅行社自身が慣れていないとのことでした。

●Denver Public Library

デンバー滞在中にこの図書館に入りました。近くには、州の議事堂などもあります。すぐ近くの公園ではリスを見ることもでき、ほのぼのとした場所だと感じました。図書館内も静かで、落ち着いた雰囲気でした。

ここで、ひとつ驚いたことは、利用者が自由

に使えるパソコンが置いてあったことです。WWWブラウザなどが使えるようになっていました。

これも私が訪れた図書館に共通していることで、アメリカ滞在中、コンピュータの利用(インターネットの利用)に不自由することはありませんでした。

もうひとつ関心をひいたのは、ボランティアがいたことです。

私が、2階にあがって案内板の前で、キョロキョロしていたら声を

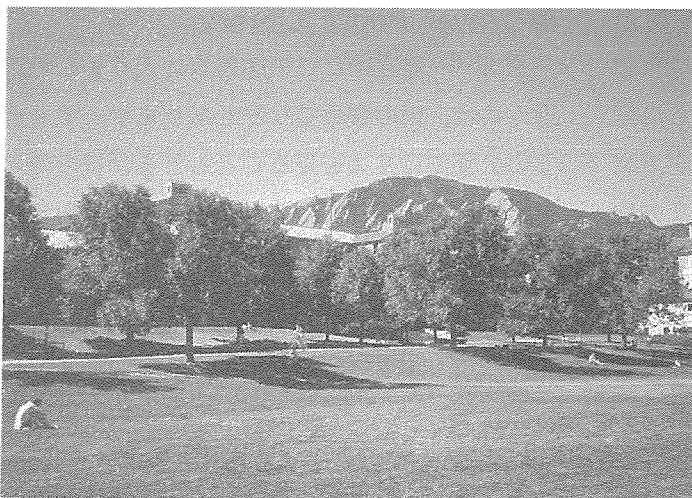
かけてくれました。

●University of Colorado at Boulder

アメリカ滞在の実質的最終日、デンバーからバスで約40分のここを訪れました。環境や設備の面では目を見張るものがありました。

まず、Visitor Centerに行きました。事前にホームページで調べていた、キャンパスツアーに参加するためです。ところが、矢印にしたがって歩いていくと、入学希望者向けのインフォメーションセッションが行われている部屋に足を踏み入れてしまいました。私は少し動揺し、説明をしている職員に参加してよいか質問してしまいました。そして、他の親子2組と一緒に、寮や専攻などについての説明を聞いていました。ボウルダーは、デンバーにも1時間弱で出られ、治安もよく、住み心地のよいところだそうです。

そして、学生によるキャンパスツアーに同行しました。このキャンパスは、山が間近に見られ、緑も多くきれいなところでした(冬は寒そ



University of Colorado at Boulder

うですが)。いくつかの施設のうち、もっとも感動したのはスポーツ施設です。利用料がかかるのかは聞きもらしましたが、プール、アスレ

チックジム、スカッシュのコートに体育館、そしてアメフト用のスタジアムまでありました。

図書館(Norlin Library) はなかなか立派な建物で、どのような図書館か興味がありました。しかし、時間もあまりなかったので、学食で食事をして、デンバーに戻りました。

●おわりに

今回のアメリカ旅行は、私個人としても大変興味深いものでしたし、

違う国の大学や図書館を見学できたことも大変楽しいものでした。また機会があれば、もっとじっくり見てみたいと思います。

(注)

1. 私が訪問した大学、図書館はウェブサイトを持っています。大学のものは、訪問者向けの情報、入学案内、図書館等へのリンクなどが含まれています。

University of California, Berkeley : <http://www.berkeley.edu/>

Stanford University : <http://www.stanford.edu/>

Denver Public Library : <http://www.denver.lib.co.us/>

University of Colorado at Boulder : <http://www.colorado.edu/>

2. アムトラックのウェブサイトでは、最新の時刻表が調べられます。<http://www.amtrak.com/>

くぼやま たけし (生命科学分館図書受入掛)

第2回貴重書展示会を開催

附属図書館では、教育文化週間行事の一環として、11月4日(火)から7日(金)の期間、本館自由閲覧室を会場に、第2回貴重書展示会「書簡に見る幕末・明治の群像&電子展示で見る懐徳堂」を開催しました。

今回は、懐徳堂友の会を経て大阪大学の所蔵となった幕末・明治の書簡コレクション「吉永文庫」から、幕末・明治初期に活躍した岩倉具視、江藤新平、大久保利通などの政治家・志士・官僚らの貴重な書簡16点を中心として展示しました。併設展として、懐徳堂文庫の代表的な資料を電子化し、会場に設置した2台のパソコンで公開するとともに、オリジナルの資料も展示しました。この電子展示のデータは現在図書館ホームページからも公開しております。

学内外から訪れた参観者の方々には、興味深くご覧いただけたようでした。アンケートでは今後

も引き続き展示会の開催を望む声も多く寄せられました。

なお、今回の展示会開催にあたり、書簡の展示をご承諾いただいた文学部、懐徳堂記念会をはじめ、ご協力いただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

国立大学附属図書館協議会常務理事会・理事会等開催

去る11月5日(水)に国立大学附属図書館協議会常務理事会が、また、6日(木)に同協議会の著作権特別委員会、協議会賞受賞者選考委員会及び理事会が、基礎工学部国際棟会議室において開催されました。

平成9年度大学図書館職員講習会開催

去る11月11日(火)から14日(金)まで、文部省との共催で、平成9年度大学図書館職員講習会が、歯学部記念会館において行われました。

受講対象者は、主として西地区の国公立大学の図書館職員で、参加者97名は、各テーマ毎の講義を熱心に受講していました。

■■■■■ 教官著作寄贈図書 (1997/Jan.-Sep.) ■■■■■

—— 本館 ——

東野 治之 (文学部、教授)

貨幣の日本史 / 東野治之著

東京：朝日新聞社，1997 (朝日選書)

東野 治之、後藤 昭雄 (文学部、教授)

口遊注解 / 幼学の会編

東京：勉誠社，1997

江川 温 (文学部、教授)

ステイタスと職業 / 前川和也編著

京都：ミネルヴァ書房，1997 (Minerva西洋史ライブラリー)

大塚 穎三 (名誉教授)

樋口一葉作品集 = Gemverkoj de Higuci

Icijou / 樋口一葉著；大塚穎三訳

東京：Ekscitono Esperanta，1997

山形 頼洋 (文学部、教授)

理性の歴史を語る / フランソワ・シャトレ著；

宮崎隆、山形頼洋訳

京都：青山社，1997

—— 生命科学分館 ——

中村 仁信 (医学部、教授)

癌の新しい画像診断 / 中村仁信、遠藤啓吾編

東京：医薬ジャーナル社，1996

堀 正二 (医学部、教授)

Tissue perfusion and organ function / Kamada Takenobu et al. ed.

Amsterdam：Elsevier，1996

高田 健治 (歯学部、教授)

プリアジャストエッジワイズ法 / ベネット，

ジョン C. & マクローフリン，リチャード P.

著；高田健治，大西馨監訳

京都：プロスペクト，1994
 プロフィットの現代歯科矯正学 / William R. Proffit著；高田健治訳
 東京：クインテッセンス出版，1989

——吹田分館——

濱口 智尋（工学部、教授）

NPMS'95 : Proceedings of the Third International Symposium on New Phenomena in Mesoscopic Structures held in Maui, Hawaii, USA, 4-8 December 15 / guest editors T. Ando, C. Hamaguchi and S. Namba.
 Amsterdam : Elsevier Science , 1996

中塚 侖（工学部、助教授）

鉄筋コンクリート構造：理論と設計 / 谷川 恭雄 [ほか] 共著（第2版）
 東京：森北出版，1994

薦田 憲久（工学部、教授）

エキスパートシステムの設計と開発 / 薦田 憲久, 大川剛直, 安信千津子共著
 東京：昭晃堂，1997（情報系教科書シリーズ；第21巻）

水野 義之（核物理研究センター、助教授）

Spin-isospin responses and weak processes in hadrons and Nuclei : proceedings of the 21st International Symposium on Spin-Isospin Responses and Weak Processes in Hadrons and Nuclei, Osaka, Japan, March 8-10, 1994 / edited by H. Ejiri, Y. Mizuno and T. Suzuki
 Amsterdam : North-Holland, 1994 (Nuclear physics ; A577, no. 1,2)

Confinement 95 : International RCNP Workshop on Colour Confinement and Hadrons, RCNP Osaka, Japan, March 22-24, 1995 / editor, H. Toki ... [et al.]
 Singapore : World Scientific, c1995

Nuclear physics at RCNP : from nucleon meson nuclear physics to quark lepton nuclear physics / Editors Y. Mizuno, T. Yamazaki, H. Ejiri
 Suita, Osaka : (RCNP) Research Center for Nuclear Physics, Osaka University, 1996

Proceedings of International Symposium on New Trends and Facilities for Intermediate Energy Nuclear Physics, Osaka, Japan, November 14-15, 1991 / editors Y. Mizuno and T. Suzuki
 Osaka : Seiei, c1995

前田 肇（工学部、教授）

信号システム理論の基礎 / 前田肇著
 東京：コロナ社，1997

塩谷 捨明（工学部、教授）

バイオプロセスの知的制御 / 山根恒夫, 塩谷 捨明編
 東京：共立出版，1997

久保 司郎（工学部、教授）

逆に考え、逆に解く / 久保司郎著
 東京：オーム社，1997

——理学部図書室——

山本 泰望（理学部、助教授）

分子生理学ノート / 中村隆雄, 山本泰望編
 東京：学会出版センター，1995

海崎 純男（理学部、教授）

詳説無機化学 / 福田豊, 海崎純男 [ほか] 編
 東京：講談社，1996

関 集三（名誉教授）

分子集合の世界：熱と温度の測定を通して視る / 関集三講話：大阪府「なにわ塾」編
 [大阪]：大阪府，1995.3（対話講座なにわ塾叢書 58）

山口 兆（理学部、教授）

分子磁性：新しい磁性体と反応制御 / 伊藤 公一編
 東京：学会出版センター，1996

糸山 浩（理学部、助教授）

Frontiers in quantum field theory : Toyonaka, Osaka, Japan, 14-17 December 1995 / editors, H. Itoyama ... [et al.]
 Singapore : World Scientific, c1996

— 基礎工学部図書室 —

林 紘三郎 (基礎工学部、教授)

Data book on mechanical properties of living cells, tissues, and organs / H. Abe, K. Hayashi, M. Sato,
Tokyo : Springer, 1996

Biomechanics : functional adaptation and remodeling / K. Hayashi, A. Kamiya, K. Ono (eds.)
Tokyo ; Berlin : Springer, c1996

Computational biomechanics / K. Hayashi, H. Ishikawa (eds.)
Tokyo ; Berlin : Springer, c1996

— 微生物病研究所図書室 —

栗村 敬 (元微生物病研究所、教授)

エイズ学 : AIDS入門 / 栗村敬著

京都 : 化学同人 , 1997

山西 弘一 (医学部、教授)

ヘルペスウイルス感染症 / 新村真人、山西弘一 監修・編集

東京 : 臨床医薬研究協会, 1996

本田 武司 (微生物病研究所、教授)

資料名 : 本田 武司・上田 成子 <共著>

食中毒-予防と対処のすべて- / 本田武司、上田成子共著

東京 : 法研, 1997

松田 守弘 (名誉教授)

MORIHITO MATSUDA :1997 His Writing in Bacterial Toxinology = 松田守弘教授業績集 / 大阪大学微生物病研究所 細菌毒素学分野 (編)

1997

■■■■■ お知らせ ■■■■■

○懐徳堂資料の電子化

図書館では第2回貴重書展示会にあわせて、懐徳堂資料の一部を電子化し、展示会場で電子展示を行いました。

今回電子化した資料は、「懐徳堂・浪速の学問所」で紹介された資料66点の画像、及び下記資料の本文です。現在附属図書館ホームページからも公開中です。

本文を電子化した資料、9点

学問所建立記録	1冊
懐徳堂定約附記	1冊
論孟首章講義	1冊
非徴	7冊
中庸錯簡説	1巻
越俎弄筆	1冊
かはしまものかたり	1冊
深衣図解	1冊
摂津名所図絵	巻1 (伊藤東涯講義図を含む)

○電子情報サービス検討委員会の設置

7月17日(水)開催の図書館委員会で、新たに電子情報サービス検討委員会を設置することが決定しました。本委員会の任務は、商用データベースの選定方針及び利用料金に関すること、データベースの構築及び利用に関することを討議することです。

委員は、9名で、委員長は西原生命科学分館長です。

○本館で学術雑誌総合目録等、CD-ROMソフト追加

本館参考調査掛では、カウンター上のパソコンで学術雑誌総合目録CD-ROM(1996年版)の提供を始めました。この1996年版は、冊子体で刊行された「学術雑誌総合目録 欧文編1994年版」と「和文編1996年版」の内容を統合しており、和雑誌・洋雑誌の区別なくタイトルやコードから検索することができます。

また、下記の辞書・事典CD-ROMを追加いたしました。

- マイベディア 97 (百科事典)
- リーダーズプラス (英和・和英辞典)
- スーパー大辞林 (国語、英和・和英、漢字辞典)
- 大辞泉 (国語辞典)
- Bookshelf (国語・英和・和英・類語辞典等)

○生命科学分館でCD-ROM検索サービス時間帯を拡大

生命科学分館では、1階CD-ROM検索コーナーの利用時間(月曜日～金曜日)を、従来の9:30～20:00から9:00～20:30とし、サービス時間を1時間伸ばしました。これにより同コーナーの利用が一層便利になりました。

○生命科学分館でBAの検索サービス開始

生命科学分館の1階CD-ROM検索コーナーに、スタンドアローンにより検索できる次のデータベースが追加されました。ご利用下さい。

- ・Biological Abstracts on CD (1980-1996)
- 生物学分野の定期刊行物9,000誌以上をソースとする生命科学情報。動・植物学、遺伝学、バイオテクノロジー、薬学、農学、食物学など、30万件以上を収め、学名、生物分類コードなどの項目も含む。

・Biological Abstracts / RRM on CD (1989-1996)

生物学分野の Reports, Reviews, Meetings をソースとする生命科学情報。

○生命科学分館が全館禁煙に

生命科学分館では8月1日から全館禁煙となりました。従来は1階ロビー内のブラウジング・コーナーで喫煙が可能でしたが、同コーナーは仕切がなく、他の利用者にご迷惑をおかけしていましたので、運営委員会で審議の結果、禁煙にすることが承認されたものです。利用者のご理解とご協力をお願いします。

○平成8年度大阪大学附属図書館年次報告を刊行

図書館では、平成3年以降毎年、年次報告を刊行、公表しています。今回の平成8年度版は7冊目となります。年次報告は各種活動報告・統計資料を収録し、図書館活動の実態を広くお知らせするとともに、現状を正しく把握することによって図書館機能の改善を図るための基礎的資料です。図書館・室に配置していますので、ご関心のある方はご一読ください。

■■■■ 会 議 ■■■■

分館長会議

7. 9 (水) 9:45～12:00

1. 図書館委員会の議題整理を行った。
2. 平成9年度事業費及び運営費の予算配分について審議し、原案どおり承認され、図書館委員会に諮ることとなった。
3. 電子的情報資料の購入予算について、購入費の利用者負担を検討することとし、図書館委員会の下に「電子情報サービス検討委員会」を設置し、利用者負担についての審議を付託することにしたとして、図書館委員会に諮ることになった。
4. 本館新築計画について、平成10年度新規概算要求に提出した資料を承認した。
5. 図書目録の遡及入力について、入力経費を事業費として予算要求するため「電子情報サービス検討委員会」に遡及入力の意義及び作業計画の検討を付託することにし、図書館委員会に諮ることになった。

6. 次期附属図書館長候補者の選考日程について審議し、原案どおり承認され、図書館委員会に諮ることとなった。

自己評価委員会

7. 9 (水) 11:10 ~ 11:20

1. 自己点検・評価の実施方法について協議の結果、来年度報告書を刊行することとし、本年度は評価の実施方法について検討することになった。

図書館委員会

7. 17 (木) 9:45 ~ 11:45

1. 平成9年度事業費及び運営費の予算配分について審議し、原案どおり承認された。
2. 電子的情報資料の購入予算について、購入費の利用者負担を検討することが了承され、「電子情報サービス検討委員会」の設置及び同委員会への利用者負担の検討の付託が承認された。
3. 本館新築計画について、平成10年度新規概算要求に提出した資料を承認した。
4. 図書目録の遡及入力について、入力経費を事業費として予算要求するため「電子情報サービス検討委員会」に遡及入力の意義及び作業計画の検討を付託することが了承された。
5. 次期附属図書館長候補者の選考日程について審議の結果、原案どおり承認された。

生命科学分館運営委員会

7. 23 (水) 13:30 ~ 16:00

1. 平成10年度生命科学分館部局分担金購入雑誌について審議し、資料費分担金の不足額を、分担金の増額と購入雑誌の一部購読中止で対処することが了承された。
2. 平成9年度製本費配分額について協議の結果、原案どおり承認された。
3. 1階ブラウジング・コーナーを禁煙にし、館内を禁煙にすることが了承された。

8. 7 (木) 15:00 ~ 16:00

1. 平成10年度生命科学分館部局分担金による購入雑誌について審議し、購読中止雑誌タイトルが承認され、購入雑誌タイトルが確定した。

吹田地区運営委員会

8. 6 (水) 10:30 ~ 11:30

1. 次期吹田分館長候補者の選考について、投票の結果、西原 浩 工学部教授が次期吹田分館長候補者として選出された。
2. 平成9年度学生用図書購入費等執行計画について審議し、原案通り了承された。

10. 27 (月) 10:00 ~ 11:15

1. 電子情報サービス検討委員会について、経過報告及び基本方針等の説明があり、審議された。また、吹田分館将来計画検討ワーキンググループを設置することが承認された。

電子情報サービス検討委員会

9. 3 (水) 10:00 ~ 12:20

1. 電子的情報資料の購入予算について、資料利用者から利用料金を徴収し、購入費の不足分に当てることについて審議したが、継続審議となった。
2. 図書目録の遡及入力について審議の結果、具体的な計画案を作成することになった。
3. 電子図書館の構築について審議の結果、継続審議となった。

10. 8 (水) 13:00 ~ 15:00

1. 電子的情報資料の購入予算について審議の結果、資料利用者から利用料金を徴収することについては了承され、利用料金は次回検討することになった。
2. 図書目録の遡及入力について審議の結果、必要な経費を共通事業費で要求することが了承され、図書館委員会に提案することになった。
3. 電子図書館の構築について審議の結果、継続審議となった。

●●●●● 日 誌 ●●●●●

H 9. 6.13	外国雑誌センター館会議	(一橋大学)
	第66回近畿地区国公立大学図書館協議会総会	(大阪女子大学)
6.25~26	第44回国立大学図書館協議会総会	(京都勧業館)
7. 2	第69回近畿地区医学図書館協議会例会	(大阪市立大学)
7. 9	分館長会議	(本館)
	自己評価委員会	(本館)
7.10	図書館情報システム特別委員会	
	平成9年度第1回ILLシステム専門委員会	(生命科学分館)
7.16	平成9年度第1回総合目録小委員会	(学術情報センター)
7.17	図書館委員会	(本館)
7.23	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
8. 6	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
8. 7	生命科学分館運営委員会	(生命科学分館)
8.18~19	ILLシステム地域講習会	(本館)
8.20~22	目録システム地域講習会	(本館)
9. 3	電子情報サービス検討委員会	(本館)
9.11	図書館情報システム特別委員会	
	平成9年度第2回ILLシステム専門委員会	(生命科学分館)
10. 2	平成9年度第2回総合目録小委員会	(学術情報センター)
10. 8	電子情報サービス検討委員会	(本館)
10.15	第30回国立七大学附属図書館部課長会議	(名古屋大学)
10.16	第71次国立七大学附属図書館協議会	(名古屋大学)
10.27	吹田地区運営委員会	(吹田分館)
11. 4	図書館情報システム特別委員会	
	平成9年度第3回ILLシステム専門委員会	(生命科学分館)
11. 4~ 7	第2回貴重書展示会	(本館)
11. 5	国立大学図書館協議会常務理事会	(基礎工学部国際棟)
11. 6	国立大学図書館協議会理事会等	(基礎工学部国際棟)
11. 7	国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会	(東京大学)
11.10	第1回総合目録委員会	(学術情報センター)
11.11~14	平成9年度大学図書館職員講習会	(歯学部記念会館)
11.25~26	第10回国立大学図書館協議会シンポジウム	(神戸大学)